

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M211L202		人間関係論 (Human Relations Approach)					心身の機構									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	2	医学部看護学 科	後期	木4	日本語			単独							
担当 教員	氏名 川崎 隆 (非常勤)															
	E-mail 内線															
授業 の 概 要	人間関係、人と人の関係性は、大抵の場合、難問である。本講義では、臨床心理学の観点から、人間関係に関する知見を解説すると共に、受講生は実践を通じて人間関係を学ぶ。専門家になる動機を振り返る、自身のストレスや健康を考える、他者の話を聴く、他者に自分の思いを伝える、支え合う、コミュニティに働きかける、そうした体験を蓄積し、実践に役立てられる心理学を共に学んでいく。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 人間関係の諸問題について、分析し述べる。																
目標2 自己理解のワークを通じて、自己理解に関する見解を述べる。																
目標3 他者理解のワークを通じて、他者理解に関する見解を述べる。																
目標4 支え合いのワークを通じて、コミュニティ支援に関する見解を述べる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	4					2	
授業の内容																
1 オリエンテーション、人間関係とは																
2 自己理解 (援助の動機を振り返る)																
3 自己理解 (ストレスと対処法)																
4 自己理解 (家族)																
5 自己理解 (アサーション)																
6 自己理解 (セルフケア)																
7 他者理解 (傾聴の技法)																
8 他者理解 (描画法)																
9 支え合い (チームアプローチと多様性)																
10 支え合い (多職種協働)																
11 支え合い (ピア・サポート:概説)																
12 支え合い (ピア・サポート:課題の抽出)																
13 支え合い (ピア・サポート:企画)																
14 支え合い (ピア・サポート:実践)																
15 振り返り																
ラ ー ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認		様々な個人ワーク、ペアワーク(ロールプレイ)、グループワークを行う。「支え合い」では、聞き取りやアンケート調査、可能であれば実際の介入も行っていきたい。			工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		参考文献や配布資料をもとに予習する。(15h)													
	事後学修		時間外にグループワークを行い、課題の準備を行う。(30h)													
	想定時間合計		45													
教科書	教科書は指定しない。															
参考書	Corey, M.S. & Corey, G. (1999). Becoming a Helper(3rd) Brooks/Cole Publishing Company (下山晴彦監訳 (2004). 心理援助の専門職になるために 臨床心理士・カウンセラー・PSWの基本テキスト 金剛出版) ISBN-13 : 978-4772408226															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	85%										
ワークへの取り組み	15%											
注意事項	成績評価はレポートの他、受講態度やワークの取り組み姿勢、出席状況なども含めて総合的に行う。レポートは、「自己理解」で1回「他者理解」で2回「支え合い」で1回課す。											
備考	授業の進行状況により、授業内容や順序を一部変更する場合がある。											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	大分県スクールカウンセラー（高等学校）、臨床心理士、公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	現場の経験と研究の成果から、自己理解や他者理解の方法を提示、討議し、受講生の理解を深める。実際に支援を立案し実践する方法を紹介し、実践的観点から学べる環境を作る。											